

活動報告

団体名	Keiwa HOPE
活動名	若い力を被災地に。Keiwa HOPE による被災者寄り添い活動 2
活動期間	2018年12月～2019年3月
活動の成果	<p>瓦礫撤去などの力仕事については、被災者が金銭的、年齢的に自宅の再建に諦めていたときであったが、共に活動をすることで、前に進む気持ちが芽生えたとおっしゃっていただいた。参加した学生は複数回の活動を経ているため、活動現場ではリーダーを担う学生も育ってきました。同じ活動を共にすることで、年齢、国籍、出身地を問わず大きな交流の輪がうまれたことで、今後、新潟が被災した場合においても支援のネットワーク構築がより早くなるであろう実感ももてました。</p> <p>サロン活動においては、これまでの被災地ではあまり関わってこなかった活動でしたが、今回、活動に従事することで、復興期における支援活動について学ぶことができました。被災者に寄り添い、活動を共にすることで時間の経過とともに変化する復興支援のあり方、被災者の心のうちを少しでも知ることができ、また、新潟から現地に赴くことで「忘れられていない」と感じていただけたと感想をいただきました。</p> <p>写真洗浄については、指示された作業を行う活動とですが、作業には正確さをはじめ多くの経験値が求められます。その経験値は数回の活動では得られるものではないため、より多くの活動回数（経験）が求められるものだと知りました。</p> <p>今後の課題については、活動人数を増やすことがあげられますが、金銭的や授業の関係から現地活動が難しいことも確かです。その問題を解決するために、写真洗浄の技術を修得し新潟でも被災地支援ができる体制をつくることも課題解決の1つともおもいます。また、被災者同士のコミュニティ形成の場をさらに広げることで、相互協力につながるため、現在サロンなどに足を運んでいない層に対してもアプローチの必要があると考えます。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>第1回助成に引き続き今回の第2回助成も採択いただきました。被災地でのボランティア活動に対し、あたたかいご理解、ご寄付を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>学生が現地に入り被災地活動をする際には費用面がネックとなります。しかしながら、「困っている人の力になりたい」学生たちの気持ちを助成金をいただけたことで活動が実現し、さらに複数回にわたる被災地活動によって被災者との信頼関係の構築、コミュニティ形成の一助となれました。</p> <p>私たち Keiwa HOPE (Keiwa for Helping Other PEople) は引き続き、助けを求める方々に寄り添い、新潟からできる継続した支援を行っています。</p> <p>この度は誠にありがとうございました。</p>

(活動のようす)

